

「こども未来アクション」 概要版

「こども未来アクション」とは

子供目線で捉え直した政策の「**現在地**」と、子供との対話を通じた「**継続的なバージョンアップの指針**」

【子供の意見に基づく子供政策の推進】

子供を「**客体**」ではなく「**主体**」として捉え、子供の「**生の声**」を見える化

「こども未来アクション」を子供との対話ツールとして活用し、**継続的にアジャイル**

子供の意見とエビデンスに基づいて**政策を形成**

子供及び子育て世代を主な対象として、**ユーザー目線**に立ち、**政策を分かりやすく記載**

こどもとともに作る「いま」と「みらい」

こどもの笑顔があふれる社会の実現に向けて、東京都は、こどもとの対話をもとに、こどもの目線に立った取組を「こども未来アクション」にまとめました。ここからの「ワ」ページは、こどもにも分かりやすい言葉でつくっています。

～子供及び子育て世代を主な対象として、ユーザー目線に立ち、政策を分かりやすく記載したページの例～

主役であるこどもの意見を大切にしていきます

こどもたちが話し合ったり様々な意見を出せる機会があればいいな
こどもの意欲が高まるようこどもの意見を積極的に取り入れてほしい
こどもの意見も大人と同じくらい尊重される社会がいい
こどもたちからも意見を聞いて何を求めているのかをしっかり把握して実行してほしいな

こどもの笑顔があふれる社会をつくります

こどもが自分らしく健やかに成長できる
社会全体がこどもを大切にしている
安心して子育てができる

こどものために何がベストかを
社会全体で「こどもを大切に」する
子育て世代をずっとサポートします

東京都こども基本条例

こどもはかけがえない存在 権利の主人公
こどもにはこどもの権利があります。誰もが持っている、当たり前の権利があります。こどもの権利は大切にされなければならないものです。

こどもの幸せが一番
大人はこどもに最も良いとは何かということ、第一に考えます。

こどもの意見は大切にされます
こどもの意見は、価値あるもの、尊いものです。大人はこどもの意見にしっかり向き合います。

こどもの笑顔につながる「遊び」の推進

自由に楽しく遊べる場所をもっとついでほしい
思いやり ボール遊びがしたい。
学校以外の友達や大人とも交流したい。
無料で遊んでの経験ができる場所が欲しい。

「遊び場」づくり
こどもが自由に伸び伸びと遊ぶことができる場所をつります。「遊ぶ」だけでなく、他に様々なことができる場所も増やします。

「遊び」の機会づくり
こどもが自由な発想で、挑戦できる「遊び」体験イベントを実施します。

1章 様々な手法で聴いた子供の意見

形式的な意見募集にとどめるのではなく、様々な工夫を凝らして子供の生の声を聴き取り

- ✓ 質問内容の工夫
- ✓ 幅広く多くの子供の参加を可能とするデジタルツールの活用
- ✓ 学校での出前授業
- ✓ 地域の居場所に足を運んでのヒアリング

「こども未来アクション」の策定に当たり、以下3つの手法を用いて、4歳から18歳までの2,500人を超える子供から意見・提案を聴き取り

子供の居場所におけるヒアリング
12箇所 約100人

- ・ 同じことを思っている友達が身近にいるから安心する。
- ・ 自由に過ごせる場所、フリースペースを何個もつくってほしい。
- ・ 遊ぶことは、想像できるから楽しい。作っていく遊びが楽しい。
- ・ 家でひたすらかけ算をすると集中できるので、安心できる。できないことがどうすればできるようになるかが分かれば安心することができる。
- ・ パパとママがケンカしたことは嫌だった。

SNSを活用したアンケート
中学生・高校生 約2,000人

- ・ 周りに仲の良い友達がいる、困った時には助け合えるのが理想。
- ・ 何でも気軽に相談できる人が増えてほしい。
- ・ 私が都知事だったら、子供の要望を取り入れた公園をつくる。

出前授業
小学校・中学校・高校 各1校
合計約500人

- ・ 遊びを通して友達と仲良くなれる。
- ・ 事故は起きて仕方ないものではなく、予防できるものという発想に変わった。
- ・ ヤングケアラーについて知識が増えてよかった。もっと知る機会を増やしたらいいと思う。

2章 チルドレンファーストの社会の実現に向けて

目指す東京の姿：チルドレンファーストの社会

子供が自分らしく健やかに成長できる

社会全体で子供をサポート

安心して子育てができる

こども未来アクション

子供目線で捉え直した政策の「現在地」と、子供との対話を通じた「継続的なバージョンアップの指針」



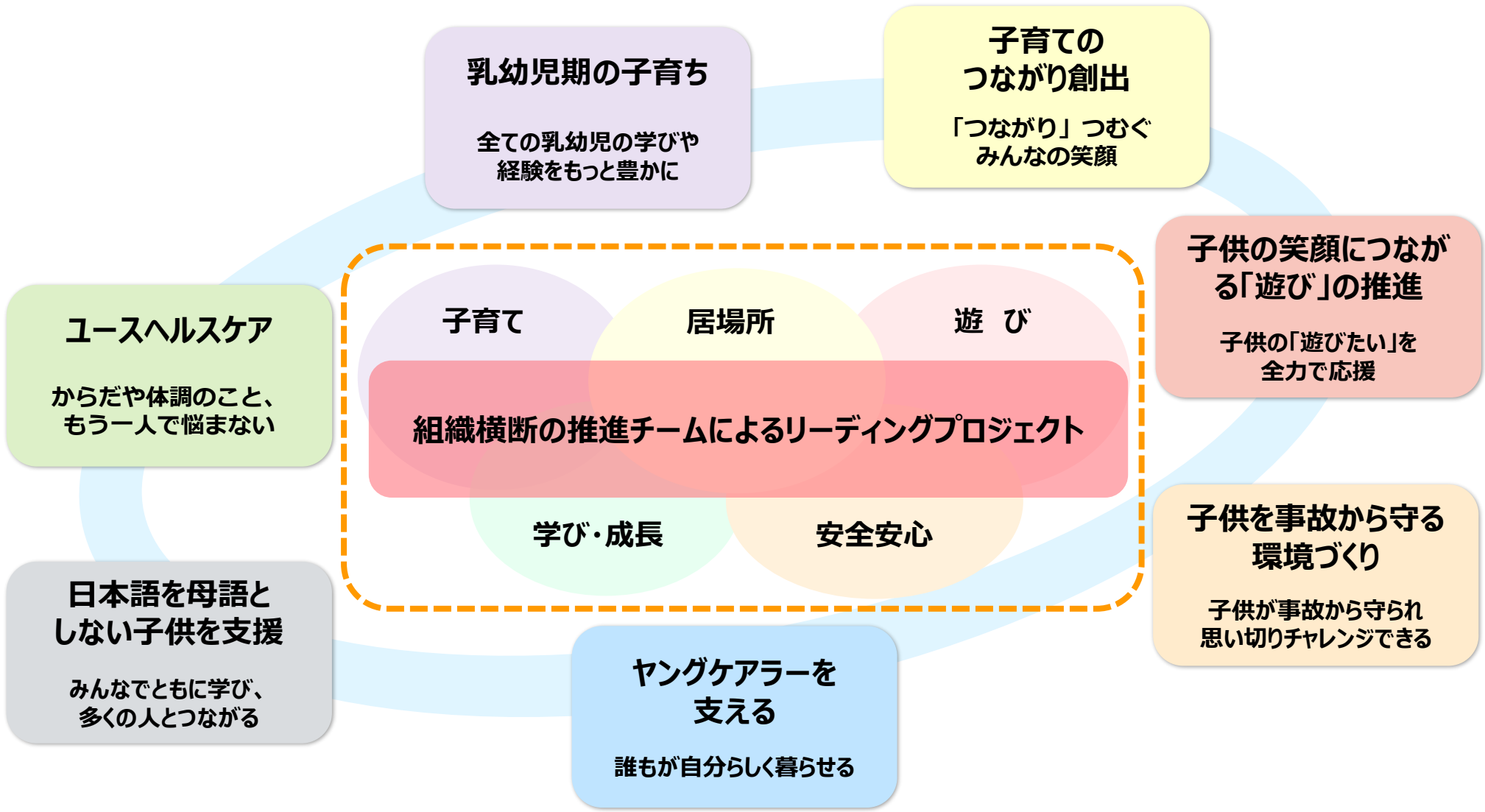
東京都子供・子育て支援総合計画（第2期）

法定の子供・子育て支援に関する総合計画

3章 すべての子供の笑顔を育む子供政策の加速に向けて

1. 組織横断の推進チームによるリーディングプロジェクト

既存の枠組みでは対応が難しいテーマごとに、子供政策連携室が核となり、政策分野の垣根を越えて関係局からなる推進チームを組成



乳幼児期の子育て

子供目線に立った
幼保共通のサポートに向けた取組を展開

令和4年12月「Cedep」と協定締結
※Cedep: 東京大学大学院 教育学研究科附属
発達保育実践政策学センター

【幼児教育・保育の充実】

幼稚園や保育所といった施設類型の垣根を越え、多彩な体験・経験に触れ合うことのできる
共通プログラムを策定

「子育て」応援プログラムのコンセプト

全ての乳幼児の「探究」を支援 ～子供を取り巻く世界の全てを「探究」の場とする～

子供は、日々の遊びの中で、無意識に「探究」を積み重ねながら成長

プログラムの活用によって、ねらいや意図をもって「探究」を実践し、「探究」プロセス全体の質を向上

好奇心を抱くきっかけを増やす

思考のループを広げる

思考のループを深める

生涯発達の土台形成

主体的に「探究」のプロセスを積み重ねることで、意欲・自己肯定感・社会性等の非認知能力を培う

【全ての子供に多様な他者と関わる場を提供】

「子供の最善の利益」を基軸にという観点から、幼稚園・保育所等において乳幼児を定期的に受入れることにより、タテ・ヨコ・ナナメ(※)の多様な他者と関わり合い、非認知能力の向上など全ての乳幼児が健やかに成長できる環境を構築

※タテ(対大人)・ヨコ(対同年齢)・ナナメ(対異年齢)

子供の笑顔につながる「遊び」の推進

【子供の遊び場の創出】

子供の意見を反映しながら、プレーパークや、公共空間・施設等の地域資源を活用した遊び場など、区市町村の遊び場創出に向けた取組を強力に支援 等



【子供の「遊び」体験の機会の充実】

子供の身近な場所で、多様な遊びを経験できるイベントを「子供の『遊び』推進プロジェクト」として実施し、「遊び」の魅力を発信するとともに、遊びの専門家であるプレーリーダーを育成 等

子育てのつながり創出

コロナ禍の影響等により子供や子育て家庭の感じる孤独や不安が増加

→リアルとバーチャル双方の視点から、全ての子育て家庭の状況に合わせた新しいサポートの形を創出

こどもを事故から守る環境づくり

子供の年齢や発達によって事故種別は変化

→産官学民の連携のもと、エビデンス・ベースの事故予防策を展開

ヤングケアラーを支える

子供の気持ちや、ケアを要する家族の状況は様々

→多機関連携のもと、一人ひとりのニーズに応じて多面的なサポートを実施

日本語を母語としない子供を支援

直面する困難は多様化・複雑化

→日本語教育・指導の一層の充実、相談体制の強化、子供が集い・交流する場所の創出などを多面的に展開

ユースヘルスケア

思春期は、心身の様々な変化に直面するとともに、不安や悩みを抱え込みやすい時期

→適切な健康管理の基礎を培いながら、将来を見据えた健康増進の取組を支援

学齢期の子育てに関する推進チームを立ち上げ

フリースクール等に通う子供や支援団体へのアウトリーチ型ヒアリングや、国内外の先進事例調査等を通じて子供目線に立った政策を企画立案・実践

2. 「今後の政策強化」に基づく取組

【政策の柱1】誰一人取り残さない視点から、 子供へのサポートを強化

困難な環境にある子供や、長期化するコロナ禍により心身に影響を受けている子供への支援を一層充実

- ① いじめ対策
- ② 不登校児童・生徒対応
- ③ 児童虐待防止対策
- ④ 自殺対策
- ⑤ 医療的ケア児等への支援等
- ⑥ デジタルを活用した子供の相談体制
- ⑦ 子供の貧困対策
- ⑧ 多様な子供の居場所創出
- ⑨ 障害児への支援
- ⑩ 社会的養育
- ⑪ 性被害者への支援・性被害の未然防止
- ⑫ 学校における体力向上の取組
- ⑬ 地域におけるスポーツに親しむ環境整備

【政策の柱2】子育て世代に寄り添い、妊娠・出産・子育てを全力で応援

子育て世代が、いかなる状況にあっても安心して子供を産み育てられるよう、切れ目のない重層的な支援を強化

- ① 妊娠を考える方等への支援
- ② 妊娠・出産への支援
- ③ 保育サービスの質・量の確保
- ④ 様々な視点から子育てサポート
- ⑤ ひとり親家庭への支援

【政策の柱4】多様な主体と連携し、子供の笑顔を育むアクションを展開

産官学民の協働により、社会全体で子供を大切にする気運醸成や社会課題の解決に向けた取組を戦略的に展開

- ① こどもスマイルムーブメントの更なる推進
- ② 区市町村の先駆的・組織横断的な取組支援
- ③ 子供との双方向コミュニケーション・情報発信・子供の参加

【政策の柱3】

「東京型教育モデル」により、教育の質を向上

子供一人ひとりの個性や能力に向き合い、きめ細かくサポート

- ① 東京の強みを活かし、子供目線を大切にする学び
- ② 一人ひとりの個性や能力を最大限に伸ばす学び
- ③ 誰一人取り残さないきめ細かな教育
- ④ グローバルに活躍できる人材を育成

子供の笑顔につながる区市町村の取組を応援